

## 開催報告

# 第7回 家活グランプリ 結果発表！



J Aを核とした本・支店協同活動や組合員組織活動の活性化、生活・地域・文化の振興に向けて、J A職員が実践している「家の光三誌」の活用方策を募集する本グランプリ。今回も全国からたくさんのアイデアが寄せられました。

北川太一（摂南大学教授・審査委員長）、佐久間幸子（家の光専門講師）、木下春雄（家の光協会常務理事）の各審査委員（敬称略）による厳正な審査の結果、入選者が決定しました。

### 審査結果

#### 最優秀賞

## 対話からその先へ

愛知県 J A あいち中央 坂田由里子さん

#### 優秀賞

## ～私たちの再出発。ヒントは『家の光』から～

神奈川県 J A あつぎ 野田奈緒さん

## 進化する女性部

静岡県 J A 遠州夢咲 飯塚容子さん

#### 佳作

## 『家の光』×SDGs 楽しく学んで広がる活動を目指して

岩手県 J A 江刺 及川春香さん

## 『家の光』で「ちむどんどん」

福井県 J A 福井県 大橋奈津実さん

## ■ コロナ禍を乗り越え、家活の輪をさらに広げていく

審査委員長 北川太一

J Aの教育文化活動は、『家の光』をはじめとする「家の光三誌」を積極的に活用しながら、女性組織や支店での協同活動を展開することによってJ A、組合員、地域とのつながりをつくり、J Aの事業や活動、組合員の拡大など組織の根を広げていくことをめざしています。第7回となる家活グランプリですが、今回はコロナ禍による規制緩和が進められてきたなかでの事例もみられました。とはい

え、まだまだ多くの制約があるため、コロナ禍でも前向きな姿勢で創意工夫をおこない、仲間と協力しながら取り組む実践事例が依然として多く寄せられました。3人の審査委員により、①組織・地域の特性を踏まえて、創意工夫して「家の光三誌」の記事を活用しているか、②教育文化活動や記事活用の効果と広がりが見られるか、③豊かな表現力で活動内容が表されているかを評価の基準として、12の作品を対象とした審査がおこなわれました。厳正な審査の結果、各賞を決定しましたが、いずれも甲乙つけがたい力作ぞろいで、惜しくも今回の選には漏れた作品からも多くのヒントが得られました。このような実践事例に学びながら、家活の輪がますます広がることを期待しています。



審査委員のみなさん。左から北川審査委員長、佐久間審査委員、木下審査委員

入選作品は、家の光協会のウェブサイト「家の光ネット」(<http://www.ienuohikari.net/>)で公開いたします。また、最優秀賞受賞作品は『家の光』9月号に掲載予定です。令和5年度もキラリと光るアイデアを募集します。詳細は今後、上記サイトでご案内する予定です。